

第 375 回研究報告会 (2025 年 2 月 14 日)

「遺骨の個人化—ベトナム南部メコンデルタの事例から考える—」

芹澤 知広 (天理大学国際学部教授)

本報告では、主として 2018 年と 2019 年にベトナムのチャヴィン省で行った調査と、2024 年 12 月にバクリエウ省とキエンザン省で行った調査から、ベトナム南部メコンデルタ地域で現在起きている墓制にかかわる現象を紹介した。すなわち本報告の「遺骨の個人化」とは、平信徒が身近な故人の遺骨に個人

的な愛着を抱き、その結果、遺骨に個人的な人格が付与されたまま、葬儀の後も家屋の祭壇や仏教寺院の墓地で個性をもって扱われるようになった現象である。この地域の理念的なパターンでは、末子が親の家を相続し、そこで年老いた親の世話をし、親が死んでからは家の祭壇に写真を置き、毎年の命日には追善供養の儀礼を家で行う。聖職者（僧侶）ではない平信徒は、死後に火葬された後、その遺骨は、クメール仏教寺院（上座部仏教寺院）の境内にある共同のチェディー（仏塔）に納められる習慣であった。しかし今では祭壇や墓地において、特定個人の骨壺という状態のまま存在し続けるように変わってきている。

2024 年度おやさと研究所 特別講座「教学と現代」

『天理教台湾伝道史』刊行記念 台湾伝道を振り返る

天理教の台湾伝道は 1896 年（明治 29）、古谷マツ姉の渡台から始まり、翌年には「おさしづ」を仰いで、山名分教会（当時）により海外初の教会である台中教会が設置されました。その後 1934 年（昭和 9）には台北市内に台湾伝道庁が設置され、昨年 2024 年（令和 6）11 月には創立 90 周年記念祭を行いました。

おやさと研究所ではこの度、『天理教台湾伝道史』の刊行を記念して、『天理教台湾伝道史』刊行記念台湾伝道を振り返る』を開催します。台湾伝道に関わる皆様、また広く海外伝道に関心をお持ちの皆様にはご参集を頂けましたら幸いです。※事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

日時：2025 年 3 月 27 日（木） 14:00~16:20

会場：天理大学研究棟 3 階第 1 会議室

プログラム

14:00-14:05	開催挨拶	井上昭洋 所長
14:05-14:15	①伝道史の編集の経緯	金子昭 研究員
14:15-14:30	②戦前の台湾伝道史	山西弘朗 香川大学 非常勤講師
14:30-14:45	③戦後の台湾伝道史	高佳芳 元海外部員
14:45-15:00	④天理教婦人会の伝道	堀内みどり 主任
15:00-15:15	⑤台湾伝道史の一齣	中西牛郎と高見庄蔵 佐藤浩司 元研究員
15:15-15:25	休憩（10 分）	
15:25-16:10	質疑応答	全員
16:10-16:20	総括と挨拶	三濱善朗 本部員
16:20	閉会	

[共催] 天理総合人間学研究室、天理ジェンダー・女性学研究室、伝道史料室（第 9 回伝道フォーラム）